

鶏肉需給等関係資料

平成24年3月

農林水産省生産局食肉鶏卵課鶏卵食鳥班

鶏肉需給等関係資料

(1) 需給動向

○ 鶏肉需給の推移

(単位：千トン、%)

年度	2	7	14	15	16	17	18	19	20	21	22
消費量	1,678 (▲1.1)	1,820 (3.5)	1,898 (0.2)	1,848 (▲2.6)	1,805 (▲2.3)	1,919 (6.3)	1,974 (2.9)	1,965 (▲0.5)	1,989 (1.2)	2,017 (1.4)	2,094 (3.8)
生産量	1,380 (▲2.6)	1,252 (▲0.3)	1,229 (1.0)	1,239 (0.8)	1,242 (0.2)	1,293 (4.1)	1,364 (5.5)	1,362 (▲0.1)	1,395 (2.4)	1,413 (1.3)	1,417 (0.3)
輸入量	297 (0.3)	581 (12.6)	662 (▲5.7)	585 (▲11.6)	561 (▲4.1)	679 (21.0)	589 (▲13.3)	605 (2.7)	643 (6.3)	553 (▲14.0)	681 (23.1)
在庫増減	▲9	10	▲10	▲27	▲3	51	▲23	▲5	42	▲60	▲7

資料：農林水産省「食料需給表」

注1：21年度以降は年次ベース。

2：消費量、生産量及び輸入量の()内は対前年度増減率。

3：輸入量は鶏肉調製品を含む。

○ 鶏肉の国別輸入量

(単位：千トン、%)

年度	合計		うち中国		うちタイ		うち米国		うちブラジル	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
平成7	529	111	192	129	109	93	126	100	97	122
12	555	100	235	108	125	96	85	88	108	103
13	556	100	163	69	176	140	72	85	142	131
14	495	89	122	75	167	95	50	68	153	108
15	430	87	43	36	146	88	41	83	194	127
16	365	85	0.9	2	0.1	0.0	32	77	323	167
17	433	119	0.8	84	0.1	78	28	90	394	122
18	340	78	0.4	55	0.0	21	27	95	308	78
19	362	106	0.1	25	0.0	26	23	86	333	108
20	420	116	0.1	117	—	—	22	94	392	118
21	343	82	0.1	92	—	—	23	104	315	80
22	431	126	0.2	164	—	—	35	156	389	123
23 (4-1)	404	110	0.2	103	—	—	39	135	353	107

資料：財務省「日本貿易統計」

注：輸入量は実量ベースで、鶏以外の家きん肉は含まない。

鶏肉の消費量については、これまで食生活の高度化、多様化、外部化等により着実に増加してきており、近年においても低価格志向の高まり等により、増加傾向で推移している。16年1月以降は国内外での高病原性鳥インフルエンザ発生の影響を受け、減少傾向。17年度以降は回復傾向で推移しており、22年度は、対前年度比3.8%増となった。

国内生産量は、小規模飼養者層の減少や輸入鶏肉の増加等により概ね減少傾向で推移してきたが、国産肉志向の顕在化等により13年度以降、概ね横ばいないし増加傾向で推移。22年度は、低価格志向の高まりがある一方、猛暑による種鶏への影響により、対前年度比0.3%増となった。

輸入鶏肉については、これまで業務用需要の伸び等から中国を中心に増加傾向で推移してきたが、14年度は平均水準を大きく上回る輸入在庫の整理により、大幅な減少傾向で推移。さらに16年1月以降はタイ、中国、アメリカ産家きん肉輸入一時停止の影響で大幅な減少。17年度は、ブラジル産の輸入増加により前年度を19%上回ったものの、輸入在庫が大幅に増加したこと等から、18年度以降は再び大幅な減少傾向で推移した。20年度は、国産品の卸売価格が堅調であったため、市場の品薄感からブラジル産の輸入が増加し平均水準を大きく上回ったが、21年度は、輸入在庫の大幅な増加や景気の低迷等により前年度を18%下回った。

22年度以降は輸入在庫水準が大幅に下がったことや、猛暑、高病原性鳥インフルエンザ及

び東日本大震災による供給不安等から増加傾向で推移している。

○ 鶏肉調製品の国別輸入量

(単位：千トン、%)

年度	合 計		うち中国		うちタイ	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
平成 7	56	141	19	185	25	132
1 2	163	137	97	149	48	117
1 3	193	119	114	118	64	133
1 4	220	114	142	125	73	115
1 5	203	92	114	80	83	113
1 6	272	134	143	126	122	147
1 7	338	124	185	130	149	122
1 8	346	103	196	106	149	100
1 9	339	98	193	99	144	97
2 0	311	92	122	63	186	129
2 1	313	101	140	115	171	92
2 2	387	124	187	133	197	115
2 3 (4-1)	372	112	193	120	174	105

資料：財務省「日本貿易統計」

注：輸入量は実量ベースで、12年度以降は鶏肉以外の家きん肉調製品を含まない。

鶏肉調製品については、中国、タイを中心に増加傾向で推移してきたが、15年度は16年1月のタイ、中国での高病原性鳥インフルエンザ発生による輸入一時停止の影響で減少した。その後、タイ、中国については、我が国が指定した加工施設で加熱処理された鶏肉調製品の輸入が認められたことから、両国からの輸入が鶏肉から鶏肉調製品にシフトした結果、18年度は、鶏肉調製品の実量ベースで鶏肉をわずかに上回った。20年度は、中国産ギョーザ問題の影響から中国からの輸入が大幅に減少した。

21年度も、対前年同期とほぼ同水準で推移したが、22年度以降は猛暑、高病原性鳥インフルエンザ及び東日本大震災による供給不安や、大手ファストフード関連業者が鶏肉調製品を用いた商品を増やして消費していること等により、増加傾向で推移している。

(参考)

○ 主要国における鶏肉生産量及び輸出量

(単位：千トン、%)

		2007	2008	2009	2010	2011 (見込)	前年比	2012 (推計)	前年比
アメリカ	生産量	16,226	16,561	15,935	16,563	16,757	101	16,603	99
	輸出量	2,678	3,157	3,093	3,069	2,966	97	3,039	102
中 国	生産量	11,291	11,840	12,100	12,550	13,200	105	13,800	105
	輸出量	358	285	291	379	410	108	445	109
ブラジル	生産量	10,305	11,033	11,023	12,312	12,954	105	13,602	105
	輸出量	2,922	3,242	2,992	3,181	3,300	104	3,465	105
EU-27	生産量	8,320	8,594	8,756	9,245	9,500	103	9,630	101
	輸出量	635	742	783	992	1,100	111	1,120	102
タ イ	生産量	1,050	1,170	1,200	1,280	1,350	105	1,420	105
	輸出量	296	383	379	432	460	106	500	109
日 本	生産量	1,250	1,255	1,282	1,290	1,235	96	1,270	103
	輸出量	6	7	9	11	5	45	10	200
世 界 計	生産量	70,172	73,580	74,308	78,397	81,033	103	83,074	103
	輸出量	7,413	8,459	8,309	8,909	9,153	103	9,596	105

資料：USDA“Livestock and Poultry:World Markets and Trade”

主要国の生産量及び輸出量は、ともに近年横ばいないし増加傾向で推移。特に中国、ブラジル、タイにおける増加が顕著となっている。

(2) 消費動向

○ 肉類の年間1人当たり消費量

(単位：g、%)

年度	鶏肉		牛肉		豚肉	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2	3,645	97	3,082	103	4,840	99
7	3,591	102	3,612	101	4,705	102
13	3,672	103	2,340	76	5,180	105
14	3,709	101	2,499	107	5,243	101
15	3,517	95	2,410	96	5,222	100
16	3,567	101	2,253	94	5,407	104
17	3,710	104	2,268	101	5,493	102
18	3,884	105	2,219	98	5,539	101
19	4,021	104	2,213	100	5,703	103
20	4,123	103	2,159	98	5,924	104
21	4,473	109	2,302	107	6,010	102
22	4,398	98	2,235	97	6,064	101
23 (4-1)	3,801	103	1,847	98	5,153	102

資料：総務省「家計調査」

○ 消費構成

(単位：%)

年	鶏肉			牛肉			豚肉		
	家計消費	加工仕向	外食等	家計消費	加工仕向	外食等	家計消費	加工仕向	外食等
平成2	32	8	60	48	9	43	40	30	30
7	30	11	59	43	8	49	40	31	29
13	31	9	60	33	10	57	42	26	32
14	33	12	55	34	8	58	42	30	28
15	32	10	58	34	9	57	40	29	31
16	33	10	57	35	10	55	40	29	31
17	34	8	58	36	10	54	41	29	30
18	35	9	56	35	10	55	43	27	30
19	36	9	55	34	9	57	44	25	31
20	37	8	55	34	6	60	45	25	30
21	38	7	55	34	5	61	47	24	29
22	38	7	55	34	5	61	46	25	29

資料：生産局畜産部推計

鶏肉の年間1人当たりの家計消費量は、景気等の状況により年による変動はあるものの、概ね横ばいで推移してきた。15年度は、16年1月の国内外での高病原性鳥インフルエンザ発生等により減少したが、16年度には回復し、その後も低価格志向を反映して増加傾向で推移した。22年度は国内で頻発した高病原性鳥インフルエンザにより、対前年度比98%となっている。平成22年の鶏肉の消費構成割合は、家計消費が38%、加工・外食等が62%となっている。

(参考)

○ 主要国における鶏肉の年間消費量

(単位：千トン、%)

	2007	2008	2009	2010	2011		2012	
					(見込)	前年比	(推計)	前年比
アメリカ	13,590	13,435	12,946	13,470	13,890	103	13,606	98
中国	11,415	11,954	12,210	12,457	13,020	105	13,605	104
ブラジル	7,384	7,792	8,032	9,132	9,655	106	10,138	105
EU-27	8,358	8,564	8,692	8,930	9,100	102	9,220	101
メキシコ	3,061	3,281	3,264	3,345	3,492	104	3,494	100
ロシア	2,637	2,840	2,976	2,938	2,907	99	3,099	107
インド	2,239	2,489	2,549	2,647	2,697	102	2,745	102
日本	1,945	1,926	1,978	2,075	2,060	99	2,065	100
世界計	69,938	72,863	73,803	77,434	79,901	103	81,753	102

資料：USDA“Livestock and Poultry:World Markets and Trade”

(3) 価格動向

○ ブロイラー価格の推移

年度	卸売価格				小売価格	
	もも肉	前年比	むね肉	前年比	もも肉	前年比
	円/kg	%	円/kg	%	円/100g	%
平成2	-	-	425	106	108	102
7	556	103	273	88	107	98
13	620	100	276	138	120	104
14	657	106	218	79	125	104
15	568	86	216	99	124	100
16	587	103	223	104	123	99
17	568	97	229	103	123	100
18	573	101	216	94	123	100
19	651	114	261	121	126	102
20	688	106	333	127	135	107
21	617	90	211	63	128	95
22	632	102	250	118	130	102
23(4-2)	631	101	253	103	130	100

資料：農林水産省「食鳥市況情報」、総務省「小売物価統計」

1) 卸売価格

もも肉価格は、15年度は下降傾向で推移する中、国内外での高病原性鳥インフルエンザ発生の影響により16年2月以降はさらに低水準で推移したが、4月以降は回復基調で推移。20年秋以降は在庫の増加等により軟調に推移した。

21年冬以降は、在庫量減少等により前年を上回る水準で推移しており、22年以降も猛暑、鳥インフルエンザ及び東日本大震災等の影響により、堅調に推移したが、23年秋以降は輸入、国産の在庫量増加等により軟調に推移している。

むね肉価格は、加工・業務用向けで競合関係にある輸入品（もも肉が大半）の増加等により、ほぼ一貫して低下傾向で推移してきた。16年2月以降は、タイ、中国産の家きん肉の輸入一時停止により加工・業務用の国産品に対する引き合いが強まり、前年を上回る水準で推移したものの、18年度は前年を下回って推移した。19年度は、輸入鶏肉価格の上昇等により国産志向が高まっていること等から、前年度を上回る水準で推移していたが、21年秋以降は軟調に推移した。

22年以降は猛暑、鳥インフルエンザ及び震災等の要因に加え、加工・業務用需要が旺盛なこと等により堅調に推移したが、23年秋以降は輸入、国産の在庫量増加やブロイラー種鶏の切替えによる育成率の向上等により、軟調に推移している。

2) 小売価格（もも肉）

小売価格は、13年度以降、120円台で推移してきた。20年度は、卸売価格の上昇を反映して堅調に推移していたが、21年度は在庫水準が高かったため、価格が低下した。22年

度以降は130円程度で推移している。

(4) 経営動向

○ ブロイラー飼養戸数、羽数の推移

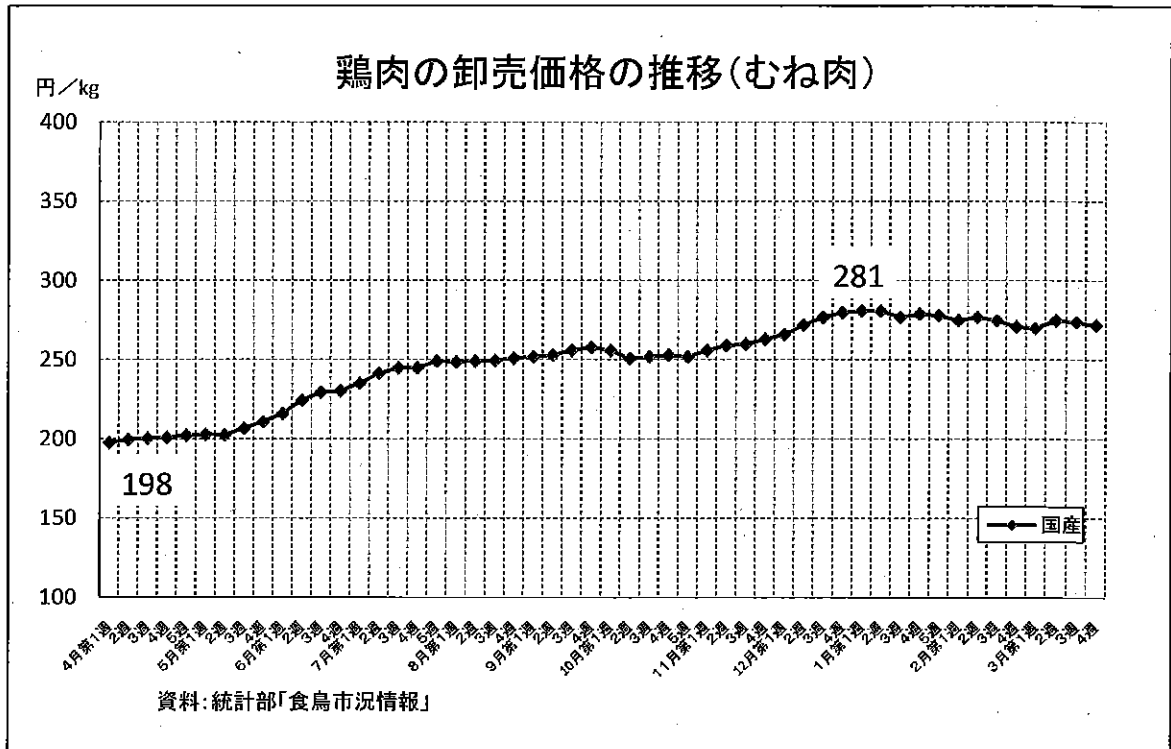
区分 / 年	平成2年	7	13	14	15	16	17	18	19	20	21
飼養戸数(戸)	5,529	3,853	2,986	2,900	2,839	2,778	2,652	2,590	2,583	2,456	2,392
(対前年増減率)	(▲5.2)	(▲6.7)	(▲3.1)	(▲2.9)	(▲2.1)	(▲2.1)	(▲4.5)	(▲2.3)	(▲0.3)	(▲4.9)	(▲2.6)
飼養羽数(千羽)	150,445	119,682	106,311	105,658	103,729	104,950	102,277	103,687	105,287	102,987	107,141
(対前年増減率)	(▲1.7)	(▲6.0)	(▲1.9)	(▲0.6)	(▲1.8)	(1.2)	(▲2.5)	(1.4)	(1.5)	(▲2.2)	(4.0)
出荷戸数(戸)	5,940	4,328	3,385	3,365	3,323	3,240	3,120	3,065	2,991	2,925	—
うち30万羽以上層 (戸数シェア)	303 (5.1)	312 (7.2)	356 (10.5)	387 (11.5)	391 (11.8)	387 (11.9)	422 (13.5)	419 (13.7)	447 (14.9)	467 (16.0)	—
出荷羽数(千羽)	708,308	606,494	567,876	586,045	595,283	589,957	606,898	621,820	622,834	629,766	—
うち30万羽以上層 (出荷羽数シェア)	212,521 (30.0)	213,566 (35.2)	242,000 (42.6)	260,640 (44.5)	269,553 (45.3)	269,621 (45.7)	292,238 (48.2)	304,052 (48.9)	314,027 (50.4)	324,672 (51.6)	—
1戸当たり平均 飼養羽数(羽)	27,200	31,100	35,600	36,400	36,500	37,800	38,600	40,000	40,800	41,900	44,800
1戸当たり平均 出荷羽数(羽)	119,200	140,100	167,800	174,200	179,100	182,100	194,500	202,900	208,200	215,300	—

資料：農林水産省「畜産物流通統計」

注：飼養戸数及び羽数は各年2月1日現在。

飼養戸数が減少傾向で推移する中、飼養規模の拡大は着実に進み、特に年間出荷羽数30万羽以上の飼養者層のシェアは、戸数、羽数ともに拡大しており、出荷羽数については50%以上にまで拡大。

22年度



23年度

